

第4学年 国語科学習指導案

1組 36名
指導者 真川 正浩

- 1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
(教材名「世界にはこる和紙」「百科事典での調べ方」「伝統工芸のよさを伝えよう」光村4年下)

2 単元について

(1) 単元の価値とねらい

本単元は、「書くこと」の(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にして、書き方を工夫すること」、「読むこと」の(1)ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」に基づいて設定されている複合単元である。

児童はこれまでに「アップとルーズで伝える」で文章構成や段落同士の関係(対比)、「要約するとき」で要約の方法、「パンフレットを読もう」で必要な情報を中心に読むことを学習してきた。

そこで、本単元では文章の中から重要な語や文を見付け出したり、内容を短い文章で簡潔にまとめて伝えたりすることができるように、「世界にはこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」を教材とし、リーフレットにまとめて伝えようという言語活動を設定している。「世界にはこる和紙」では、本文を読んで、筆者の主張をとらえたり要約したりする活動を行う。本教材は、構成がとらえやすく、考えと理由の関係をとらえたり、中心となる語や文を見付けたりする学習に適しているため、書くことが苦手な児童でも要約しやすい教材となっている。ここで行う要約の学習は、1学期の既習内容であり、本単元でさらに力の定着を図る。また、ここでとらえた説明の仕方の工夫を「書くこと」の学習で生かすことによって、その効果に対する理解を深める。「伝統工芸のよさを伝えよう」では、百科事典などを活用して、調べたことをまとめ、リーフレットに書く活動を行う。リーフレットについては、「パンフレットを読もう」の教材で、概要について学習をしているためイメージがしやすく取り組みやすいと考える。

本単元を通して、百科事典や本、インターネット等の情報から、自分なりの考えを形成し、考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして表現する力が育成されると考える。

(2) 系統

	教材名	単元を通して身に付けたい力
3年	○言葉で遊ぼう／こまを楽しむ ○すがたをかえる大豆 ○ありの行列	・段落とその中心をとらえて読む。 ・話題と、事例の書かれ方をとらえて読む。 ・段落どうしのつながりに気を付けて読み、互いの共通点・相違点に注意しながら感想を伝え合う。
4年	○思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える 要約するとき ○パンフレットを読もう ○世界にはこる和紙 ○百科事典での調べ方 ○伝統工芸のよさを伝えよう ○ウナギのなぞを追って	・文章構成や段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えをとらえる。 ・要約の方法を知る。 ・作られた目的や対象を踏まえて、必要な情報を中心に読む。 ・まとめごと中心となる語や文を確かめ、要約する。 ・百科事典の使い方を知る。 ・理由や事例をあげて考えを伝える。 ・興味をもったことを中心に要約し、文章に対する感じ方の違いやよさを考える。
5年	○固有種が教えてくれること ○想像力のスイッチを入れよう	・文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。 ・事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝え合う。

(3) 指導の基本的な立場

本単元では、地域の伝統工芸の魅力を伝えるリーフレットを作成することを通して、中心となる語や文をとらえて要約する力や自分の考えとそれを支える理由や事例を明確に表現する力を育成する。また、自分が伝えたいことを相手に分かりやすく表現できることや自分の学び方について認識できるようにする。そのために、次の点に留意する。

1点目は、「よさ」や「みりよく」というものは、主観的で漠然としたものであるため、自分の感じる「よさ」や「みりよく」を相手に伝えるためには、具体例を示し、そう判断する理由を述べなければならない。このことを児童が認識した上で学習に取り組むことができるようにする。

2点目は、常にゴールとなる言語活動を意識し、この時間は何のために何をすべきなのかという意識をもって学習に取り組むことができるようにし、学習の足跡を可視化できるようにする。そのことによって、単元の主たる目的を見失わず、最後まで意欲と集中力をもって取り組むことができると考える。

(4) 児童の実態 (令和4年7月19日実施 調査対象35名)

- | | |
|---|--|
| 1 | 国語の学習は好きですか。
そう思う…6人 だいたいそう思う…12人 あまりそう思わない…9人 そう思わない…8人 |
| 2 | 物語文を学習するのは好きですか。
そう思う…13人 だいたいそう思う…10人 あまりそう思わない…8人 そう思わない…4人 |
| 3 | 説明文を学習するのは好きですか。
そう思う…5人 だいたいそう思う…5人 あまりそう思わない…15人 そう思わない…10人 |
| 4 | 書く活動は好きですか。
そう思う…7人 だいたいそう思う…11人 あまりそう思わない…12人 そう思わない…5人 |
| 5 | 国語の授業中、自分の思いや考えをもっていますか。
そう思う…14人 だいたいそう思う…13人 あまりそう思わない…5人 そう思わない…3人 |
| 6 | 国語の授業中、自分の思うことを発言できていますか。
そう思う…2人 だいたいそう思う…6人 あまりそう思わない…18人 そう思わない…9人 |
| 7 | 国語の授業中、友達の意見を聞くことで、自分の考えが変わったり、深まったりすることがありますか。
そう思う…12人 だいたいそう思う…9人 あまりそう思わない…7人 そう思わない…7人 |
| 8 | 国語に関する力で、どの力が大切だと思いますか。
読む力…8人 書く力…7人 話す・聞く力…13人 言葉などの知識力…7人 |

【考察】

「国語の学習が好きですか。」の質問に対し、「そう思う・だいたいそう思う」と答えた児童が18人である。このことから、約半数の児童は国語の学習が好きだと考えており、約半数の児童は好きではないと感じていることが分かった。また、「説明文を学習するのは好きですか。」の質問に対し、「あまりそう思わない・思わない」と答えた児童が25人であることから、7割以上の児童が説明文の学習に抵抗感を感じていることが分かった。「書く活動は好きですか。」の質問に対して、「そう思う・だいたいそう思う」と答えた児童が18人と多かった。その理由としては、「自分の考えを書くのは楽しい。」や「俳句や詩を書くのが好き」などの意見があった。

「国語の授業中、自分の意見や考えをもっていますか。」の質問に対しては、「そう思う・だいたいそう思う」と答えた児童が27人、「あまり思わない・思わない」が8人と、ほとんどの児童が自分の考えをもっていることが分かった。しかし、「国語の授業中、自分の思うことを発言できていますか。」の質問では、「あまり思わない・思わない」と答えた児童が27人もいた。このことから、自分の思いや考えをもつことは比較的できているが、発言・表現することが苦手な児童が多いことが分かる。「国語の授業中、友達の発表を聞くことにより、自分の考えが深まることがありますか。」の質問に対しては、「そう思う・だいたいそう思う」と答えた児童が21人もいた。また、「国語に関する力で、どの力が大切だと思いますか。」という質問では、「話す力・聞く力」が13人で一番多かった。

アンケート調査からも本学級の児童は、日記や俳句など文章を書くことが好きな児童が多く、書く活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。一方で、文と文との関係性が曖昧であったり、「だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように」といった情報が不十分であったりして、分かりにくい文章が多く見られる。したがって、読み手を意識した分かりやすい文章を書く力を身に付けることが必要だと考える。

(5) 指導上の留意点

児童の読解力の実態・説明的文章に対する抵抗感などを踏まえて「分かる・できる」学びを志向し、その視点から単元レベル・本時レベルでの言語活動を工夫する。まず、単元名やリード文の確認、題名読みなどを通して、単元を貫く言語活動を「保護者や地域の方々へ『地域の伝統工芸』を紹介するミニ報告会をしよう。」と設定する。リーフレットによる報告会については、県民週間の参観日の学習として設定することで、動機付けを高めるとともに相手・目的意識を明確にもつことができるようにする(社会科の学習とも関連させる)。また、先に述べた児童の実態を考慮し、児童が抵抗なく学習が進められるように次の点に留意して指導を展開する。

ア 学習計画を教室内に掲示し、見通しをもって学習に臨むことができるようにする。児童も同じ計画を書いたものを持ち、いつでも確認しながら進めることができるようにする。また、「学びの足跡」を作成し、教室内に掲示しておく。

イ 中心となる語や文を見付ける際には、文章全体の構成の学習を手掛かりとしたり、何度も出てくる言葉を見付けたり、見付けた言葉をグループで紹介し合い精査したりする活動を仕組みステップで要約をしていく。

ウ 自分の考えを友達に説明するために、ノートに自分の考えを言葉で書く時間を設けたり、個別

指導の際に確認したりすることで、ペア学習や全体での発表の際に自分の考えについて説明することができるようにする。

エ 自分の考えをまとめた後、友達と交流する場を設定することで、いろいろな考えを知り、多面的に考えられるようにする。

3 単元の目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付こうとしている。
【学びに向かう力・人間性等】
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
【知識及び技能】
- (4) 事典の使い方を理解し、使うことができる。
【知識及び技能】

4 指導計画

過程	主な学習活動○本時	時	○指導上の留意点・【評価】	
つ 見 か 通 む す	1 単元の目標を確認し、学習計画を立てる。 【単元を貫く言語活動】 保護者や地域の方々へ「地域の伝統工芸」を紹介するミニ報告会をしよう。	1	○ 単元名・リード文から学習課題をおさえる。題名読みをとおして、筆者の意図にも迫ることができるようにする。 ○ リーフレットによる報告会をするという単元のゴールを知らせ、学習の見通しをもつことができるようにする。また、今後の学習に向けて、伝統工芸に関する本を読み始めるように促す。 【態】伝統工芸について関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、進んで学習に取り組もうとしている。	
	2 「世界にほこる和紙」を読みおおまかな内容をとらえる。段落を確かめ、文章全体の構成をとらえる。	2	○ 題名に着目し、和紙に関する知識などを交流させる。 ○ 1学期の説明文単元を想起し、説明文単元の学習の進め方を確かめることができるようにする。 ○ 「初め」「中」「終わり」の構成をおさえる。	
3 「世界にほこる和紙」を読み、事例や理由の段落と主張(考え)の段落を判別する。筆者の主張をとらえる。	3 4			
調 べ る ・ 深 め る	④ 「和紙あるある調査」と銘打って、本文の「中」に書かれている内容を補足しながら読む。筆者の説明の工夫をおさえる。	4	○ 事例や理由と主張の判別をする活動を通して、文章全体の大まかな構成をとらえることができるようにする。 ○ 教師の提示した筆者の主張が正しいものなのか話し合い、吟味する。 【思】筆者の主張とそれを支える理由や事例との関係について、叙述をもとにとらえることができる。	
	5 要約について想起し、要約の仕方や要約に必要な中心となる語や文について考える。前時の学習を踏まえて「世界にほこる和紙」を要約する。	5 6	○ 筆者の考えの根拠となる「中」の部分詳しく読み、理由や事例についてのミニコメントを発表することができるようにする。 ○ カテゴリーごとに確認していく。(事例・写真・文章構成・表現・他) 【思】自分の考えをもちながら読むことができる。	
	6 伝統工芸に関する本について、よさが書かれていると思うところを中心に要約する。	7 8	○ 主張が述べられている段落を読み、筆者が読み手に強く伝えたいことは何かを考え、それをもとに中心となる語や文を考えることができるようにする。 【思】文章を読んで内容と構成をとらえたうえで、まとめりごとに中心となる語や文を考えながら要約している。	
	7 「百科事典での調べ方」を読み、事典の使い方を知る。	9	○ つかむ段階から読み進めていた本について、自分が関心をもった伝統工芸のことを要約させる。 【態】進んで中心となる語や文を見つけて要約したり、複数の本を読んだりしようとしている。	
	8 伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。取り上げるものを決めて、本等で調べ、情報を整理する。	10 11	○ 次の活動では、百科事典などを用いて情報収集を行うことを理解することができるようにする。 【知】百科事典の使い方を理解することができる。	
	9 組み立てを考え、リーフレットの下書きをする。	12	○ リーフレットを作成する必要性を考えることができるようにする。 ○ 教科書に掲載されている「リーフレットの例」を参考に、必要な情報や文章構成について考えることができるようにする。	
	10 レイアウトを工夫し、リーフレットを作る。	13 14	○ 文字量の目安を示す。 ○ 文章を書く際には、「書くべき事柄は何か」「どのような順序で書くか」などについて意見を交流する場を設定し、必然性のある対話することができるようにする。 【思】調べたことをもとに、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	
	11 友達と読み合い、感想を伝え合うなどして、ミニ報告会の練習をする。			
	ま 振 と り め 返 る	12 ミニ報告会をし、感想を交流する。単元の学習を振り返る。	15 16	○ 県民週間の参観授業として行う。地域の方や保護者に来ていただき、二日間に分けてミニ報告会をする。 ○ コミュニケーションを成立させるために一往復半のやりとりをすることができるようにする。 【思】考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

5 本校の研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ

「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに励まし高め合う子どもの育成」

(2) 授業の視点

視点イ②交流活動の充実

ア 調べる段階では、自力解決の後、グループでまとめる活動に取り組み、自分の考えを説明するとともに、考えを補えるようにする。また、考えた理由が様々あることに気付くようにする。

イ 全体での話し合いにおいては、教師は共感的に言葉掛けを行い、子供どうしが主体的に意見をやりとりし、互いを認め合う対話的な活動ができるようにする。

視点ア③振り返り

ア 振り返りの段階では、振り返りカードに「他者理解」の視点で書くことを伝えることで、他者意識をさらに深められるようにする。

6 本時（4／16）

(1) 本時の目標

段落のランク付けや要旨の選択という活動を通して、筆者の考えと事例とを判別しながら読み、筆者の主張を正しくとらえることができる。 【知識及び技能】

(2) 本時の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点 (①交流活動②振り返り) ※評価
つかむ	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 筆者はどんな主張(考え)を述べているのだろう。	6	○ 「主張は何だろう。」とストレートに問いかけ、意図的指名で数名に発言させる。容易に主張がつかめないことを押さえ学習課題へと焦点化する。
見通す	2 本時の学習方法と学習の流れを確認する。 ・ 小黒板で流れを確認する。		○ 前時の学習を想起し、学習の方法と流れをつかむようにする。その際、小黒板にまとめておき可視化する。
調べる	3 本文を音読する。 ・ 段落読み 4 筆者の考えが書かれている段落をランク付けする。 ・ 個人→グループ ・ 自分が考えたランキングをもとに、グループで話し合い意見交流を行う。 ・ グループで決めたランク付けをホワイトボードにまとめる。	15	○ 文末表現や接続語、繰り返し使われる後などに留意しながら、①②⑩の段落を読むようにする。 ① 意図的に相互読みを取り入れ、互いの読み方のよさに気付くことができるようにする。
まとめる	5 全体で話し合う。 ・ 各グループがまとめたものを比較・検討する。 ・ 話し合いを通して、ランキングを加除・修正し、論理をつかむ。	5	○ 叙述をもとに順位を付けられるように次の3つの視点を示す。 ア 文末表現 イ 接続語(つなぎ言葉) ウ 繰り返し使われる言葉 ① 友達の考えや意見を認め合う雰囲気ができているグループを具体的に称賛する。
振り返る	6 選択肢(文章カード)を比較・検討することで筆者の主張をつかむ。 7 本時のまとめをする。 わたしは、多くの人に世界にほころ和紙を使ってほしい。	8	○ グループとしての意見の決め方は、事前に指導しておく。 ア 賛成多数 イ 理由に納得 ウ リーダーがいいと思う考え ○ グループ間の違いを明確にして理由を考えることで、叙述をもとに考えることができるようにする。
振り返る	8 定着トレーニング(練習問題)をする。	3	① 子供同士が、相互に自由に意見を交わせるように教師は最低限の助言と共感の姿勢で話し合いを見守りながら、必要に応じて言葉掛けを行う。 ※ 事例や理由の段落と主張の段落を判別できたか。
	9 本時の学習を振り返る。(振り返りカード)	5	○ 教師が三つの違うパターンの主張の文章を提示し、その可否を検討・吟味することができるようにする。 ※ 正しい主張かどうか叙述をもとに考えることができたか。 ○ 6の活動を整理して本時のまとめを行う。段落②と⑩の内容だけでなく、主張の根拠となる③～⑨段落の細部読みもしないと確実に主張を理解できたとはならないことに気付くことができるようにし、次時の活動につなげる。
			○ 主張(考え)を判別するための練習問題を解き、判別読みの定着を確実にする。
			② 振り返りで、他者との交流を通してどうだったかという視点を伝えることで、他者理解にもつなげるようにする。

(3) 板書計画

世界にはこる和紙

めあて

筆者は、どんな主張をのべているのだろうか。

学習の流れ

- ①段落のランク付け
- ②話し合い
- ③要旨をとらえる

ランク付けのポイント

- ①文章の最後
- ②つなぎ言葉
- ③くりかえし使われる言葉

⑩ ② ⑦	⑩ ② ①	② ① ⑩
② ⑩ ①	⑩ ②	② ⑩

まとめ

わたしは、多くの人に世界にはこる和紙を使ってほしい。